



# 原子力発電所周辺の環境放射能調査 (2023年度第1四半期報告書)の概要

2023年度第1四半期(2023年4月～6月)の調査内容

線量率連続測定		97 地点	環境 試料	核種分析	海産食品	17 試料	
積算線量		27 地点			指標海産生物	22 試料	
浮遊じん放射能濃度の連続測定		11 地点			海水	17 試料	
環境 試料	核種 分析	大気中ヨウ素-131	環境 試料	トリチウム 分析	海底土	19 試料	
		浮遊じん			45 試料	大気中水分	42 試料
		陸水			7 試料	陸水	7 試料
		農畜産物(原乳)			1 試料	雨水(3ヶ月混合試料)	11 試料
		指標植物(ヨモギ)		6 試料	海水	26 試料	
		指標植物(松葉)		5 試料	環境試料合計		311 試料
		陸土		11 試料			
		降下物		33 試料			

## 1 空間放射線量率連続測定結果

(報告書:本文は p.2～3、局別測定結果は表3-3-1 p.21～33)

### ①測定地点:計97地点

敦賀地区:22地点    白木地区:7地点    美浜地区:13地点  
大飯地区:17地点    高浜地区:15地点    広域地区:23地点

### ②評価方法

1時間ごとの空間放射線量率を確認し、平常の変動幅を超過した場合は、降雨等の気象状況、近接局の測定結果等をもとに、県内原子力発電所からの影響の有無を調査する。

### ③測定結果

平常の変動幅を超えたデータは、ほとんどが降雨による上昇であり、降雨以外では、静穏時における大気中ラドン子孫核種濃度の上昇による影響が敦賀地区1地点において、最大10時間観測された。その他、これら以外の上昇は無く、県内原子力発電所に起因する空間放射線量率上昇は観測されなかった。

地区(地点数)	降雨	降雨以外	原子力発電所の影響
敦賀 (22)	0 ~ 33	0 ~ 10	0
白木 (7)	12 ~ 24	0	0
美浜 (13)	13 ~ 24	0	0
大飯 (17)	7 ~ 28	0	0
高浜 (15)	12 ~ 27	0	0
広域 (23)	8 ~ 34	0	0

## 2 積算線量測定結果

(報告書:本文は p.4、測定結果は表3-3-2 p.34~35)

### ①測定地点:計27地点

敦賀・白木・美浜地区: 9地点  
大飯・高浜地区 :18地点

### ②評価方法

3ヶ月間(92日換算)の積算線量値を確認し、平常の変動幅を超過した場合は、周辺環境の変化、降雨等の気象状況等をもとに、県内原子力発電所からの影響の有無を調査する。

### ③測定結果

平常の変動幅の範囲内であり、県内原子力発電所に起因する線量上昇は認められなかった。

## 3 浮遊じん放射能の連続測定結果

(報告書:本文は p.5、局別測定結果は表3-3-3 p.36~37)

### ①測定地点:計11地点【県観測局のうち11地点で $\alpha$ 放射能、 $\beta$ 放射能を連続測定】

敦賀地区:2地点                      白木地区:2地点                      美浜地区:2地点  
大飯地区:2地点                      高浜地区:3地点

### ②評価方法

人工放射能検出の指標となる $\beta/\alpha$ 放射能濃度比を確認し、平常の変動幅を超過した場合は、風速等の気象状況、近接局の測定結果、空間放射線量率等をもとに、県内原子力発電所からの影響の有無を調査する。

※天然放射性核種の影響により、 $\alpha$ 放射能濃度と $\beta$ 放射能濃度は変動するが、 $\beta/\alpha$ 放射能濃度比はほぼ一定である。これに対し、発電所からの影響がある場合、放出される人工核種は主にI-131やCs-137などの $\beta$ 線放出核種であるため、 $\beta/\alpha$ 放射能濃度比が上昇する。

### ③測定結果

- ・ $\beta/\alpha$ 放射能濃度比で、平常の変動幅を超えたデータが最高3回/月 観測されたが、同時刻の空間放射線量率測定結果等に異常はなく、いずれも天然放射能の自然変動によるものであった。
- ・ $\alpha$ 放射能濃度、 $\beta$ 放射能濃度はともに天然放射能濃度のレベルであった。

## 浮遊じん平常値範囲逸脱の時間およびその原因

地区(地点数)	自然変動	その他	原子力発電所の影響
敦賀 (2)	0 ~ 2	0	0
白木 (2)	0 ~ 1	0	0
美浜 (2)	0 ~ 3	0	0
大飯 (2)	0 ~ 1	0	0
高浜 (3)	0 ~ 2	0	0

## 4 ガンマ線放出核種分析結果

(報告書:本文は p.5~6、測定結果は表3-3-4 p.38~49)

### ①調査目的と対象試料

周辺住民等の被ばく線量の推定および評価

大気中ヨウ素-131、浮遊じん、陸水、農畜産物(原乳)、指標植物(ヨモギ)、海産食品(魚類、無脊椎動物、海藻類)

放射性物質の蓄積状況把握ならびに放射性物質放出の早期検出および周辺環境影響評価

指標植物(松葉)、陸土、降下物、指標海産生物、海水、海底土

### ②調査対象核種

人工放射性核種: Cs-137、Cs-134、I-131、Co-60、Co-58、Mn-54、Na-22等

天然放射性核種: Be-7、K-40、ウラン系列、トリウム系列

### ③評価方法

試料中の放射能を測定し、平常の変動幅を超過した場合は、各原子力発電所の放射性廃棄物放出実績、他地点の検出状況等を確認し、県内原子力発電所からの影響の有無を調査する。また、人工放射性核種(Cs-137等)が検出された場合には、その起源を推定する。

### ④調査結果

海産食品、陸土、指標海産生物、海水および海底土の一部試料からCs-137が検出されたが、過去5ヶ年実績の範囲内であり、これまでの検出実績と比べて特に大きな変動は認められなかった。なお、いずれも県内原子力発電所に起因するものではなく、過去の核実験フォールアウトが主要因と考えられる。

人工放射性核種が検出された試料数

試料		地区	調査 試料数	敦賀	白木	美浜	大飯	高浜	広域	検出された 人工放射性核種
被ばく 線量の 評価	陸上	大気中ヨウ素-131	42 試料	0	0	0	0	0		—
		浮遊じん	45 試料	0	0	0	0	0		—
		陸水	7 試料	／	0	0	0	0		—
		農畜産物(原乳)	1 試料	／	／	0	／	／		—
		指標植物(ヨモギ)	6 試料	0	0	0	0	0	0	—
	海洋	海産食品(魚類)	7 試料	1	／	2	2	2		Cs-137
		海産食品(無脊椎動物)	3 試料	／	／	0	0	0		—
		海産食品(海藻類)	7 試料	0	0	0	0	0		—
早期検出、 影響評価	陸上	指標植物(松葉)	5 試料	0	／	0	0	0	0	—
		陸土	11 試料	2	1	2	2	2	1	Cs-137
		降下物	33 試料	0	0	0	0	0	0	—
	海洋	指標海産生物	22 試料	0	0	1	0	0	0	Cs-137
		海水	17 試料	2	0	2	1	3	1	Cs-137
		海底土	19 試料	0	0	1	0	5		Cs-137

注: /は今期調査対象外

# 第1四半期のセシウム-137分析結果

単位:浮遊じん(mBq/m<sup>3</sup>)、原乳(Bq/L)、降下物(Bq/m<sup>2</sup>)、陸水・海水(mBq/L)、その他(Bq/kg)

地区・期間 試料		敦 賀		白 木		美 浜	
		今期	18~22年度	今期	18~22年度	今期	18~22年度
被ばく線量の推定、評価	浮遊じん	—	—	—	—	—	—
	陸 水	/	/	—	—	—	—
	農畜産物(大根葉)	/	—	/	—	/	—
	農畜産物(精米)*	/	0.1	/	/	/	—
	農畜産物(原乳)	/	/	/	/	—	—
	指標植物(ヨモギ)	—	ND~0.3	—	ND~0.2	—	ND~0.7
	海産食品(魚類)	0.1	ND~0.3	/	0.1~0.2	0.1	0.0~0.1
	〃(無脊椎動物)	/	—	/	ND~0.0	—	ND~0.0
	〃(海藻類)	—	—	—	—	—	—
蓄積状況把握、早期検出、環境影響評価	指標植物(松葉)	—	—	/	—	—	—
	陸 土	0.9~6.1	0.8~25	ND~1.5	ND~1.7	3.1~5.1	0.8~7.7
	降 下 物	—	—	—	—	—	—
	指標海産生物	—	—	—	—	ND~0.1	ND~0.1
	海 水	ND~1.3	ND~2.2	—	ND~2.4	ND~1.5	ND~2.5
	海 底 土	—	ND~3.2	—	—	ND~5.5	ND~7.8
地区・期間 試料		大 飯		高 浜		広 域	
		今期	18~22年度	今期	18~22年度	今期	18~22年度
被ばく線量の推定、評価	浮遊じん	—	—	—	—	/	/
	陸 水	—	—	—	—	/	/
	農畜産物(大根葉)	/	—	/	—	/	/
	農畜産物(精米)*	/	—	/	—	/	/
	農畜産物(原乳)	/	/	/	/	/	/
	指標植物(ヨモギ)	—	—	—	ND~0.1	—	—
	海産食品(魚類)	0.2	ND~0.2	0.1~0.2	ND~0.2	/	/
	〃(無脊椎動物)	—	ND~0.1	—	ND~0.0	/	/
	〃(海藻類)	—	—	—	—	/	/
蓄積状況把握、早期検出、環境影響評価	指標植物(松葉)	—	—	—	—	—	—
	陸 土	1.1~1.5	0.9~3.0	1.2~2.1	ND~4.7	1.8	1.1~16
	降 下 物	—	—	—	—	—	ND~0.1
	指標海産生物	—	—	—	ND~0.1	—	ND~0.1
	海 水	ND~1.6	ND~2.3	ND~2.0	ND~2.8	1.2	1.4~1.8
	海 底 土	—	ND~3.3	0.5~1.2	ND~2.2	/	/

(注1) 実績欄の値は、対象となる試料の過去5ヶ年全ての測定結果を地区ごとに集計したものである。

(注2) 「/」は今期調査対象外、「ND」または「—」は検出限界値未満、「0.0」は0.05未満で検出限界値以上の測定値であることを示す。

\* 過去実績は調査を開始した2019年度~2022年度のみ。

# 5 トリチウム分析結果

(報告書: 本文は p.7、測定結果は表3-3-5 p.50~54)

## ①調査目的と対象試料

周辺住民等の被ばく線量の推定および評価  
大気中水分、陸水

放射性物質の蓄積状況把握ならびに予期しない放射性物質放出の早期検出および周辺環境影響評価  
雨水、海水

## ②評価方法

平常の変動幅を超過した場合は、各原子力発電所の廃棄物放出状況等を確認し、県内原子力発電所からの影響の程度を調査する。

※トリチウムは、宇宙線による生成や過去の大気圏内核実験のほか、県内原子力発電所からの管理放出の影響によってほぼ常時検出される。

## ③調査結果

大気中水分から県内原子力発電所の通常の放射性廃棄物管理放出に伴うトリチウムが検出されたが、いずれも環境安全評価上問題となるレベルではなかった。

雨水および海水から県内原子力発電所の通常の放射性廃棄物管理放出に伴うトリチウムが検出されたが、これまでの検出実績と比べて特に大きな変動は認められなかった。

### 今期のトリチウム分析結果

単位: Bq/L

地区・期間		敦 賀		白 木		美 浜	
		今 期	18~22年度	今 期	18~22年度	今 期	18~22年度
被ばく線量の推定、評価	大気中水分	0.6~1.5	ND~3.6	0.5~1.1	ND~1.8	0.9~1.7	0.8~3.0
	陸 水	/		0.7	ND~1.1	0.7~1.1	ND~1.0
蓄積状況把握 早期検出 環境影響評価	雨 水	0.6~1.0	0.5~1.9	ND~0.9	ND~1.8	0.8	0.5~2.5
	海 水	ND~3.4	ND~20	—	ND~1.1	—	ND~3.7

地区・期間		大 飯		高 浜		広 域	
		今 期	18~22年度	今 期	18~22年度	今 期	18~22年度
被ばく線量の推定、評価	大気中水分	1.5~2.3	0.7~6.2	2.4~5.3	1.2~12	0.6~0.7	ND~1.4
	陸 水	0.7	ND~1.3	0.5~0.9	ND~1.1	/	
蓄積状況把握 早期検出 環境影響評価	雨 水	0.7~1.6	0.7~3.0	0.8~2.6	0.5~7.3	0.8	ND~1.2
	海 水	—	ND~5.8	ND~10	ND~12	—	ND~1.1

注: 「/」は今期調査対象外、「ND」または「—」は検出限界値未満

## 6 まとめ

### ①空間放射線量率連続測定結果および積算線量測定結果

県内原子力発電所に起因する線量上昇は観測されなかった。

### ②浮遊じん放射能の連続測定結果

県内原子力発電所に起因する変動は観測されず、いずれも天然放射能のレベルであった。

### ③環境試料の放射能測定結果

- ・ 一部の試料からセシウム-137が検出されたが、いずれも環境安全評価上問題となるレベルではなかった。検出されたセシウム-137は県内原子力発電所から放出されたものではなく、過去の核実験フォールアウトが主要因と考えられる。
- ・ 一部の試料から県内原子力発電所の通常の放射性廃棄物管理放出に伴うトリチウムが検出されたが、いずれも環境安全評価上問題となるレベルではなかった。

したがって、今期の調査結果において、県内原子力発電所に起因する環境安全評価上の問題は認められなかった。